

□海外文献紹介□

無症状患者での S 状結腸内視鏡
検査時に発見された小ポリープ

Small polyps found during fiber-
optic sigmoidoscopy in asymptoma-
tic patients: Achkar E, Carey W
(Ann Intern Med 109: 880-883,
1988)

S 状結腸内視鏡検査で、直腸から
S 状結腸にかけて 1 cm 以下の小ポ
リープをしばしば発見する。特に 5
mm 以下のポリープは、組織学的に
過形成性のものが多いと言われる
が、人によっては、腺腫のほうが多
いとも言う。それが仮りに過形成性
ポリープであっても、その 64.7% の
例に別の部位に腺腫を認めたとの報
告もある。

そこで著者らは、無症状者のスク
リーニングで S 状結腸までに小ポ
リープを発見した場合、他の部位で
同時性の腫瘍性ポリープが存在する
可能性について検討した。

3,923 人での S 状結腸内視鏡検査
のうち、9 mm 以下の大きさのポ
リープを有する無症状者が 258 人
(7%) あり、そのうち 189 人 (73%)
が全大腸内視鏡検査を受けた。ポ
リープの認められなかった 10 人を
除く 179 人の患者のポリープの組織
学的所見で、グループ 1: 過形成性
ポリープ 72 人、グループ 2: 腺腫
69 人、グループ 3: 正常組織 31 人
に分けた。残る 7 人では、組織上分
類不能とされた。さて、S 状結腸以
遠での腺腫の発見率は、グループ 1

で 29%、グループ 2 では 33%、グ
ループ 3 では 13% であった。なお、
これらのグループ間の平均年齢は、
おのおの 56, 58, 52 歳で差はほと
んどなかった。5 mm 以下のポリ
ープでも同様な傾向を示した。

以上の検討から、組織学的には何
であろうと、直腸から S 状結腸に
かけて小さいポリープを発見した
際、それ以遠に腫瘍性ポリープが存
在する可能性が高いことを示唆して
いる。したがって、S 状結腸内視鏡
検査で小さいポリープを発見した患
者では、全大腸内視鏡検査の必要性
を主張している。

(愛知県がんセンター消化器内科

小林世美 抄)